

令和4年度あま市総合教育会議議事録要旨

令和5年3月23日（木）

午後1時30分から午後3時まで

美和総合福祉センターすみれの里2階 集会室

1 出席者等

出席者等（あま市）	1名（市長）
（教育委員会）	6名
（事務局）	15名
（傍聴者）	0名

2 議題

- （1）学校施設の長寿命化について
- （2）部活動の地域移行について
- （3）モバイルWi-Fiルーターの導入について
- （4）マスクの着用について

【学校施設の長寿命化について】

（説明要旨）

○あま市学校施設長寿命化計画は、今後数十年にわたって学校施設について、どのような改修をしていくのか。そういったところを計画したものである。改修等の実施計画について、8年度までの分についてすべてが完了しているわけではないが、予定通り進んでいる。今回提案させていただいた理由の一つとして、各学校の校舎の部分について、建設後50年を超えた校舎が数校ある状態ではあるが、80年維持する計画になっている。計画的には更新というような形で書いてあるところはあるが、更新のところにおいても、すべてを新しく建て替えるような形の計画になっていないところであり、そちらについて、実際そのまま使っているのか、外装についてはどうなるのかということも含め、計画について今一度、お考えいただくために提案した。

（意見交換要旨）

○長寿命化計画という相当長い期間の計画だと思うが、お金の面で考えたり、実際にあるもので考えていくとなかなか実現は難しいと思う。やはり教育の現場である学校というものを考える場合には、理念的にどんな子供たちに、どういう教育をしたらいいのだろうか、ということも、もう一つ大きな柱になる。

特に今ここ数年、エアコン、タブレット、地域クラブへの移行、そして、実際に

あったコロナの問題。そういった中で、例えばリモート授業とか、いろんな新しいことがどんどん起こっている。そういった中でどういう教育をしていくかというの、やっぱりどっかで話し合う場も必要だと思う。

また、現在大きな問題となっているのは、不登校の子供たちの増加である。こういう子たちをどうしていくのか、いかに普通に通学できる状態に戻していくかというのも非常に大きな問題であることから、どういう施設が必要になるかというの、も考えていかなければいけない。

それから、計画的な問題。学校を作るにしても、今までと同じような形態の学校をつくれればいいかという、必ずしもそうではないと思う。現実的に今、県の方では、美和高校が連携型中高一貫校という計画となっている。そうすると、この中高の高のほうは美和高校でいいですが、中の方はどこだと。当然、あま市の中学ということですね。そういったところで連携が組まれると他の学校への影響もあると思う。そういったところの作り方の違い、それから、教育長も提案している小中一貫校、こういった一貫校をつくるかどうかという議論も進めていって、本当に必要ならば、やはりこれも市長に決断していただいて、そういう学校づくり、新しい学校を作る可能性を示してもらいたい。お金の話をするとなかなか議論が進まないが、そういったところをやっていかないとあま市の学校がどんどん時代遅れの学校になっていくのではないかと危惧している。

○あり方検討しているのを教育委員会のほうでやっているの、その結果をちょっと見てみたい。

また、個人的には先程出た不登校対策。今、ビリーブは東部地域しかない。西部、南部にも作って欲しいっていうのと、将来的にもし、不要な教室が出るということであれば、そういうところに不登校の面倒見るような、当然人手が必要になるが、教育委員会の中では考えている。ただ、お金のことに関しては、県の施設整備にしても、どんどん遅れていくのはもう間違いなく顕著である。

○長寿命化計画については、計画の中で毎年の金額でお示しをしている。ここ近年を見ますと、例えばエアコン、タブレット、そして美和中学校体育館、こういった急遽なものが近年出てきた。それだけでも結構な金額を使っており、今までの計画がどんどんどんどん、後へ後へととなっている現実がある。そういった面でも、まずは計画を立てながら、いかにして緊急性の高いものに対応するのかがいつの時代も必要なる。

今後、このタブレットが、5年経って国の方のお示しがまだ出しておらず、もう一度同じような金額で購入する可能性がある。そうすると莫大な金額になるので、当市としても愛知県としても、タブレットはもう国で持ってくれという要望は出しているが、まだまだ国の方の答えが出ていない。さらに、エアコンのほうを設置してから日にちが経つと修繕が入ってくる可能性が出てくる。

そういったことを鑑みつつ、できる限り予算を子供たちのことを考えながら何を優先してやるかっていうのをきちんと考えながらやらないと、なかなか計画通り

にはいかないだろうと思っている。

昨日もトイレ改修を要望されたところで、最初の頃は国の補助金もなく、あま市単独費でトイレ改修やっていたが、今は国の方も補助をつけていただいて順番に行っている。

災害だとか何とかってというのは別問題として、緊急性の高いものから順番にやっていかなきゃいけないだろうなと思っている。

○あり方を検討する中で先日事務局に聞いたら、あま市の子供で、市外の特別支援学校っていう子が 60 人以上いるとのこと。これを市内で何とかできないかなと思うので、意見として聞いてもらいたい。

○小規模校をどうしていくかっていうところで、小中一貫校の対象にしたらどうだということで、市長ともいろいろ話をしながら、具体化するのはいつになるのか、二、三年のところで、準備をして、議会の承認を経てというような形になってくると思う。

瀬戸市が統廃合の中で県と連携をとりながら非常に多くの特別支援学校を作っている。この間も行ってきたが、知的の障害の子供たちの学校であればさほど改修は必要ない。例えば中高一貫校になって使わなくなった施設を使うような可能性も考えられる。

今の特別支援の考え方で言うと、1 人でも種別が違えば特別支援の学級を増やしていることもある。特別支援学級に入級する希望者が多いため、個別で指導を受けるということはとてもいいことだと思うし、昔のように特別支援入っただけで特別支援ではなくて、普通学級に戻るという形にもなっているため、今後教育委員会と市部局で連携取りながら、新たな方向を示していくことが必要。今のところ、佐織の特別支援学校については定員をオーバーしてないということだが、一宮、稲沢、三河の方は過大化しており、地元の学校を改造したり県立の学校の旧校舎をうまく使うとかという形で行われている。そういったことも含めて、あま市の子供をあま市で育てるということも考慮していただいて、今後のあり方を検討をするというののかなと思う。

○特別支援学級については、甚目寺地区はほとんど一杯で美和、七宝は少し空いている。その辺をうまくやっていくにはどうしたらいいのかというのががあるが、小中一貫校をどの地区でやるのかも一つのキーワードかなと思っている。小中一貫校の場所にもよるが、多分校舎が空くはずであり、そこをどうやって利用するか。例えば、県とタッグを組みながら特別支援学校なのか、どの位置が一番いいだろうか、跡地利用も含めて今後検討が必要。県が別にやらなくても、あま市単独も一つの手であるが、通うのにも結構距離が遠くなる等ありますので、その辺をよく議論をした上で、今後の教育のあり方について考える必要がある。

そのため、小中一貫校というのは早急に答えを出した方がいいなと思っている。

○その件については、あり方検討にて来年の上半期のところで教育委員会の方へ提案する。小中一貫校も含めた形で学校をどうしていくのかということで。

【部活動の地域以降について】

(説明要旨)

○部活動の地域移行について、国全体で部活動を学校から地域の方へ移行する大きな流れがある。ただ、すぐさまというわけではなく、これから徐々に移行していく。どのような形で学校から地域の方へ移行していくのかというところは様々なパターン例がある。いかにして活動を学校から地域の方へ移行していくのかといった観点について提案させていただいた。

(意見交換要旨)

○中学校の部活動、スポーツに限らず文化部も含めてだが、国は当初早急にという事を言っていたが、いろんな状況もありトーンダウンしている。

県では県のガイドラインみたいなものはできており、あり方検討の中でそれも含めた形での提案をしていただく予定になっている。

あま市の教育委員会としては、関係者が集まって課題検討委員会をまず来年立ち上げて、まずは実態調査を行いたい。生涯学習課やスポーツ課と連携をしながら学校教育課がやっていくことになると思うが、実態調査をして、子供たち、保護者、地域の皆さんがどう考えているかを把握したいと思っており、皆様方の意見を聞いたりしながら、最初は土日の地域移行をしていけるような体制づくりの段取りをしているところである。

○あま市において、本当に地域移行ができるのかなあというふうに私は思っている。資料でいろんなパターン示されているが、総合型についても、スポーツ少年団についても、そんな大きな組織ではなく、大学はありません。企業団体、プロスポーツもまず無理。そうすると行政主導になる。ただ、全国的にこんなことが本当にできるのかなっていうのが正直な印象です。

先生方の働き方についても、他の先行事例を見てもやっぱり先生に頼っている部分がまだ多い。先生の検証をする中で、先生方のお気持ちも確認したほうがいいと思う。そして将来的にどっか1校、2校にモデル校みたいな形で、研究していただくくらいの方がいいのではないかな。

○ここで示されているプランを見ていくと、やはりそれぞれ問題があると思うが、共通する問題点としてはやっぱり指導者、人であり、どうしても教員の負担が増えるということがある。例えば、市の職員でスポーツができる職員もたくさんいると思うので、そういったところに加わっていただくということも一つのアイデアかもしれない。

それからお金の問題もある。例えば保護者の負担が増えることであれば、やっぱり保護者からの賛同が得にくい場合が出てくる、出してもいいという方もいらっしゃる、うちは出せないから子供行かせないっていうような、そういうような状態も起こり得ると思うので、そうなった場合に例えば、市としてどういう援助

をしていくかという問題になってくる。やれる範囲からやるにしても、そういったところをご検討していただければと思う。

- 甚目寺南中学校ハンドボール部が全国大会へ行ったということがニュース、新聞に出ていましたけれども、実際教えているのが学校の先生ではないということを知りまして、部活動の今後のあり方の見本になるのではないかと。そういう人々を発掘していくってということも大事だろうと思う。人が人を教育するため、子供たちにとってコーチとか監督、先生ってというのはものすごく大きな存在であり、一つ間違えばコーチによってそのスポーツが嫌になってしまうということも起こる。スポーツなり文化的な活動なり、そういうものに秀でた人を見つけていくってことが大事なことであり、幾つか例があるが、一歩前に出て進んでいくしかないと思う。

また、先ほど出たように、経済的なことで指導者の方々に対して金銭を支払うことが起こってくる。学校の先生がやっているうちはタダで教えてもらえるが、そういうお金が必要になってくる可能性もあり、お金のない者はクラブ活動に入れないことは絶対あってはいけないと思う。すぐに進んでいくってというのは難しいかなと思うが、甚目寺南中学校の指導者の方のように、そういういい人を地域で発掘していく事も大事かなと思う。

- ここまでの大きな計画になると何年かかると思うし、先ほどから出ている金銭面という問題がすごく大きいと思う。またクラブの数の差が、特に北中のところが目立つかなと思う。計画と並行してそちらの対応も考えながら、探っていけたらいいんじゃないかな。

- 北中の例をとってみると、北中には魅力を感じるが、特に美和東小学校の子は、自分がやりたい部活がないから美和中学校へ行くというような選択が大変多いように思う。

全国の中学校の体育大会、全中といわれているが、3年後までは開催地が決まっているからというような理由で非常に抵抗があったとも聞いている。

今は基本的に中学校の代表、愛知県の中学校単位の代表として、全中が行われている。ただ、来年からはクラブチームの代表として出て行ける枠ができたということから、徐々にそういった形でのチャンピオンシップスポーツについても変化が出てきている。

ただ、やっぱり部活ってどうしてっていう部分でいうと、最近はやま市でも全入制というのを撤廃しています。どうしてもやらなきゃいかんということはやっていない。上を目指したい子については学校の部活には入っても入らなくてもいいよってというような方向を示しており、もっと進めていけばいいと思っている。

今回の地域移行については、運動に親しむ、スポーツに親しむという部分のところから、チャンピオンシップスポーツも含めて、市町村だけの単位に収まらずに方向性を連携しながら作っていくのが必要かなとを思っている。

- 文化系の子供たちもたくさんいるわけで、そちらの方の受け皿として生涯学習の

方であま市もたくさんすばらしい講座があるので、そういった方向でも受け皿としてできるといいかなと思う。

○スポーツに特化する訳ではないので、文化面も文化協会だとかいろんなあるので、それをうまく活用していくのも一つかなと思う。

○いずれにしても課題が多すぎる。総合型地域クラブを立ち上げる際に、先生方は土日に行き行って指導すればいいんだよ。土日は休みだからいいんだよって言うても、あまり広がらなかった。学校の部活動だと一生懸命やられるんだが。部活動は学校教育の一環でもあるので、学校ではスポーツに親しませるとか健康づくりとかそういう観点でやって、本当に記録向上を目指す子は、平日からもう外のクラブ行きなさいとか、そういうやり方もあるでしょうし、やっぱり皆さんの意見をいろいろ聞いてみることに思う。

○地域移行はかなり難しいと私は思っている。

最初の頃、教育長といろいろ議論をさせていただき、その当時は民間クラブを立ち上げてそれぞれの中学校でやってもらうっていう形が一番望ましいだろうと思っていた。ただし、今の北中がそうだが、生徒数が少なく部活動も選択する種目が少なくなっている。そうすると、やりたいスポーツもやれなくなり、例えば野球をやるならどこの中学校行けば野球やれますよとなる。ただ、移動だとか、指導者や生徒の数によっても、いろんなパターンが出てくるので、これを一概に各中学校でやるんだということとは言えない。

また、先ほど教育長が言われたように、全中がある以上はどこの中学校っていうのが出てくる。全国大会でも、あま市の代表、あま市を背負って全国に行くという形にしないことには、多分この辺はもう全然議論にならなくなる。全国大会を目指す、チャンピオンシップを目指すであるならば、市の代表として行ってほしい。市の代表が西尾張だとか、愛知県だとかで勝ち抜いて、あま市代表としていくわけでありまして、まず全中の全国大会のあり方を変えなければなかなかこれは難しい。

例えば各中学校の統計をとって、自分の中学校ではできないけども、違う中学校でクラブ化しており、そこならできますよっていう話をすれば、それは越境でも何でもなくなる。慎重にやるっていうのも手だが、慎重ばかりでは多分前に進まないなと思っている。非常にバランスは難しく、答えを出すのにも大変な議論がいろいろあると思う。

○今後国の動向、県の動向、少しずつ情報が出てくると思うので、とにかく子どもたちにとって、何が一番いい選択なのかっていうことをしっかり見据えながら、あま市として方向性を決めていく必要がある。

それから、日本の文化で、部活動がスポーツだとか文化面を支えてきたっていうのがある。親の世代、おじいちゃんおばあちゃんの世代も含めて部活をやってきたという、すべて全入制でやってきたんだというものがあるため、なかなか今の親御さんに理解をしていただくのは難しいと思う。

ましてや、学習指導要領の中に部活は教育の一環という言葉がある。だから、全国都市教育長会の中で、学習指導要領のこの一文を無くさないといけないのではと文部科学省の担当課にも言った。

もう部活動は学校の教育活動の一環ではないんだと。4時半以降については違った形で、やっぱり社会というか地域が何らかの形でみていくんだという方向を示していかないといかんだろうなということを思っている。

下呂の中学校がもう4時半になったら、すべての子が下校し部活は一切やってない。多治見も4時半以降部活は学校の教育の範疇ではないという形でやっている。先例をしっかりと研究をしながら、あま市としても議論していかなければならない。

【モバイルWi-Fiルーターの導入について】

(説明要旨)

○ここ数年の間に、小中学校の児童生徒に一人1台タブレットの端末を準備し、活用している。

令和5年度より、各小中学校、教育相談センターの教師、教員、教職員も児童生徒が、家庭等の学校以外の場所でタブレット端末を活用できるようにするため、モバイルWi-Fiルーターの試行運行も始める。そこでタブレット端末について現在の状況と学校以外の場で活用方法についてなど情報を共有する意味もあることから今回の議題とした。

○現在タブレットの活用の方は学校の中がほとんどであり、セキュリティの面で現在持ち帰りはさせていないという状況。ただ、一部オフラインで持ち帰って課題をする等については許可をしているのが現状。

来年度以降モバイルWi-Fiルーターの導入を進めていく中で考えているのは、まずは、一斉のオンライン起動ということは考えておらず、特に不登校の子に対して、持ち帰りをしながらオンラインで授業を参観するっていうことができないかということを検証していこうと考えている。

まず令和5年度については、校内の別室にしか登校ができない子が何人かいるため、そういう子が学校へ来て違う教室にいる状況で、自分のクラスの授業をオンラインで参観するとか、教育相談センター・ビリーブに通っている児童生徒が自分の学校と繋がって学びの場を増やす、選択肢を増やすという意味で、モバイルWi-Fiルーターを使いながら、オンライン授業を進めていこうというふうに考えている。

(意見交換要旨)

○あま市はオンラインをしないという方向で動き出したが、今になって少しずつそれを解消していこうということで動きがあり、今このような提案があった。

ここ2年間で先生方の授業での活用についてかなりレベルが上がってきたと思う。若い先生方に、年配の先生方が、これってどういうふうにやると授業で使えるだ

ろうねという会話が増えたと校長先生から聞いている。

子どもも本当にレベルが上がっており、学校訪問でも去年と今年と比べると、普段の授業の中でどんどん活用されている。

来年度については、まずは不登校の子たちの学習を補強するために少し前に進もうということであり、ゆくゆくはオンラインも含めて、家庭でいろんな学習が進めていけるための最初の一步と私はとらえているので、その点について何かご意見があれば伺いして今後あり方について考えていきたいなと思っている。

- 不登校たちのことを考えなきゃいけないっていうことがあり、私はそのルーターを使って不登校たちの授業をきちんとやっていただきたいと思っているので、ぜひお願いしたい。

家で教育が受けられるよってなると、インフルエンザによる学級閉鎖だとか、いざそうなった時に家でも授業を受けられる形づくり、こういったことも視野に入れながらやっていただけるとありがたい。

そういったことを踏まえて、例えば、コロナの場合は自分が陽性にならなくても休まないといけない場合があり、元気なんだけど学校に行けない事情が出てくるため、タブレットを家に持ち帰り、または、ご自分の家にあるパソコンからでも見えるような仕組みづくりを考えていかなきゃいけないだろうなと思っている。

- 自宅に持ち帰って学習したりできるのは非常にいいことなので進めていただきたいが、自宅への持ち帰りになると、タブレットの活用っていうのは、親御さんとか、家庭のチェックが非常に重要だと思う。今、他県なんかでも、夜中までずっと使っているのでも夜中は切れるようにして欲しいとかいろいろあることも聞いており、不登校の子が自宅へ持ち帰って授業を受けることもなかなか難しい。とにかく持ち帰りというのはすごく問題点も多い。いくらモバイルWi-Fi渡したとしても、速度とか全然違うかもしれないので、こっちが求めるような学習をしてくれたり、宿題をやってくれたりすることまでできるのかなと思う。難しい話だと思うので、今の課題研究の中でしっかり詰めていただきたい。

【マスクの着用について】

(説明要旨)

- 新型コロナウイルスの最初の流行から3年が経過し、徐々に元の生活に戻りつつある中で、先日、マスクの着用は基本的には外すといった形で、あとは個人の判断に委ねるということになったため、本市でも運用を変更した。

また、教育現場におきましては、卒業式におけるマスクの着用など、状況に応じて最適な形で運用していただいているところでございますし、新学期を迎えるに当たりましてどのような形を想定しているのか、現状についての意見交換をしたいとも考えているので、どのような形で新学期を想定しているか、お聞かせいただきたい。

- 全庁的にマスクの着用は個人の判断に委ねることとし、公共施設内への周知と啓

発ポスターの撤去をしたところである。

今朝、文科省からの通知が県教委を通して市教委の方にも届いた。

もう報道ではされているが、基本的に4月からの学校生活の中で、教職員及び児童生徒にはマスクの着用を基本的には求めないという形ができています。

着脱についても、それを強いることがないようにということ、着脱による差別や偏見が起きないように、各家庭でもそういったこと十分配慮して欲しいというようなことが書かれていた。

あとは、学習活動の中で、例えば理科の実験でかなり密になるような場合、合唱とか調理実習だとかそういった場合も基本的には着用を求めないということだが、かなり近い距離の中で大きな声を出し合うような場面があれば、それは適切に判断するようにということになっている。給食についても、黙食を求めることがないということについて、大声での会話は控えるようにというようなことも書かれていた。そういったリスクの高い活動についても、基本的には換気等を十分行いながら進めていけばいいということになっているので、4月以降について保護者向けの文書を準備しているところである。

今後も5月8日まではまだ2類のままということで、出席停止の扱いとか、そういったことも含めて、4月からの新しい学校生活と、5月8日に2類から5類になった時のまた対応ということで、適切な周知をしながら進めたいと考えています。

(意見交換要旨)

○教員っていうのは、顔を見せるのが仕事だと思う。外していいような場合のときは、外してほしい。例えば、卒業式、入学式の式典、式辞で校長先生がお話になるときは、生徒とはかなり離れているのが現状である。やっぱり校長先生が顔を見せて話して子供たちに伝えるっていうのは大事なことだと思う。

英語の授業の時に、ネイティブもみんなマスクしている。英語は口を見せることが必要なので、何らかの方法で口を見せるということを意図的にやるということが必要だろうと思って、それぞれの学校へ行った際には、そういうことを言わせていただけてきた。これからはマスクをしたいという教員の人もいると思うが、必要な時は外すっていう、そういう勇気を持ってこれから意識して行動していただくといいかなと思う。

○中学校の卒業式の時には、まだ受験が控えていたりするため、ほとんどの子供がマスクをしていました。ただし、ある小学校は私たち来賓も全部外していましたが、校長先生以下、歌を歌ったりする場面以外は、全部外していた。子どもたちも入場の時には少し密の部分があり着用していたが、席についてみんな外した。保護者はしていました。今はそんな状況である。

3年間こういう状況でマスクを取ることが億劫になっている部分があると思う。以前も夏に熱中症予防のため、体育の授業だとか登下校も密接にならなかつたら外していいよっていうようなことを促したが、なかなか子供たちはできなかった。

テレビで高等学校の卒業式も映していたが、まだ受験もあるということで、ほとんどの映った高校生はマスクをはめていました。特に女の子が外すのは何か抵抗があるようだ。今後脱コロナということで、マスクも含めて生活をもう一度みんなで見直すような話し合いをしたい。少しずつ改善ができるといいかなというふうに思っている。

○国からお示しがあつたのはそれで私もいいのかなと思う。学校生活のあり方っていうのを一つ一つ、元に戻していかなきゃいけない。

マスクの着脱について、本当にはめなきゃいけない子、外したい子、家庭で言われるからそのとおりにする子、という流れに必ずなってくると思うが、それによるいじめだとかを私も心配しており、その辺もしっかりとお願いをせねばと思っている。